

矢農宅のカイニヨ掃除 草刈り機4台も出動して！

カイニヨ倶楽部こだわりの「カイニヨ掃除」を 11 月 1 日（土）矢農正友さん宅（砺波市神島）で行った。

雨もあがってすっきりした晴天のもとで 17 名が雑木処理、草刈り、落ち葉集め等、広い屋敷内の全てに手をかけた。

今回は草刈り機を 4 台持ち込み、約 2,000 m²の屋敷の全体にホウキや熊手のあとがみえるようになり、すっきりした。

矢農さんは、遠方に住まいされていて、月に何度か来て、管理されているが、今回のようなすっきりした掃除は久しぶりとの事。

矢農宅の屋敷林は、スギ、ケヤキ、エノキ、カキ、クリ等の相観で、家屋の後部にはタケが入っている。南面の庭にツツジ、モチ、カシ等が植えられている。クマノミズキ、タイサンボク、マユミ等珍しい樹木もある。特にクマノミズキは砺波市内では矢農宅だけで、大変珍しい。市の保存樹林にこの屋敷林は指定されている。

約 3 時間余りみんなで汗を流して、すっきりした屋敷を眺めながら玄関前で熱い豚汁を食べた。

柏樹代表幹事が屋敷林の説明をした後、矢農正友さんが「おかげですっきりしました。これからは、少しずつ手入れをし守っていきたい」とお礼を述べた。この活動を富山、北日本新聞が取材し報じた。また、NHK の記者も参加し生物報道の取材をした。



(クマノミズキの説明)



(上・下は、作業中)



(休憩一服して話し合い中)

「屋敷林掃除」希望5軒ありました

今回の屋敷林掃除の対象宅を全会員に公募した。その結果、希望宅・推薦宅が 5 軒あって、役員会で相談し、市保存樹林の矢農宅を選んだ。5 軒の全戸について訪ね、現況やご家族の思い等を聞き選定したもの。

これからもどんな形でどこまで手伝えるのか会員の声も聞き、対応しなくてはと話し合っている。

<平成 20 年 砺波の回想>

砺波という狭い中での今年の気象に二つの意外なことがあった。

一つは、福光、城端地区の山手から平野にかかった一帯での集中豪雨による土石流被害だ。今年は7月中に3回も大雨が発生している。なかでも、7/27・28日の南砺の医王山から袴腰・赤祖父山一帯の集中豪雨は記録的で、小河川から土石流が多発した。特に福光・才川七集落の奥部で家屋にも大きな被害を出した。土石流でつぶされた川や水田、法の大きい畔が各所で崩れ、ケロイド状の土裸をのぞかせた。時雨100mm以上と推定される雨が一気に川に集中したため、城端町内の水害も大きかった。

二つめは台風が一回も来なかったことだ。これも異常だとしか言いようがない。おかげでナス、キュウリは長期間食べられ、秋野菜は元気で素直に育った。大豆の収穫もよかった。

* * *

自然の具合や気象のことは地球の動きの中での判断にかかることとしても、この異常な事態に人間が関係ないのかみておかねばなるまい。人間の物差しで集中豪雨の発生とその結果受けた被害に反省すべきことはないのかだ。

百年スパンでみてかかることと、人間の思惑で自然界を制御できるとの過信にメスを入れること、「山の扱い」「河川管理」「開発のあり方」等、謙虚に解明してほしいものである。

自然界の異常から学ぶ、そのために科学を最大限に使うことではないか。

* * *

屋敷林内の掃除をしていたら、ニシキギの枝にアマガエルの皮と片足がさされていた。モズの仕事か。その高さが1.6mの位置にあった。

はたして今冬は雪が多いのか。(か)

<短信> 「人為林」考

11月6日高岡市 浅香五十鈴さん宅(会員)の屋敷林内の整備を行った。

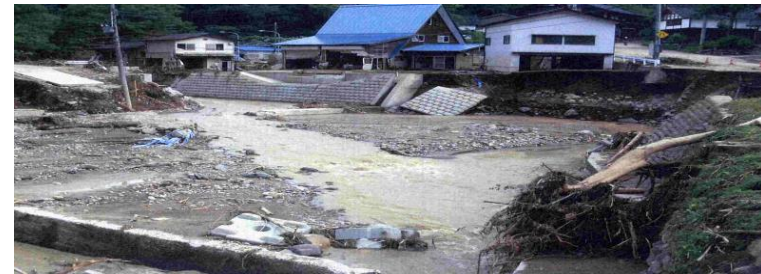
約3年間手をかけずに来た林内は大変なもので、雑木が1m以上に成立し、足を踏み入れることが難しい状態になっていた。屋敷林は人がそこにいて、毎日何等かの形で手を加え、交流し、「生きあっている」姿・型だ。人為林と称せられる訳は、山の自然林とは違った人が深く入り込んだ形の林型だということだ。



南砺市小二又(増水始まる)



上地区(橋が落ちた瞬間)



上地区(橋・工作物流失)

上記3枚写真は撮影場所同じ



南砺市小二又(田んぼに立木散乱)

写真は南砺市提供